

言葉で伝え合おう

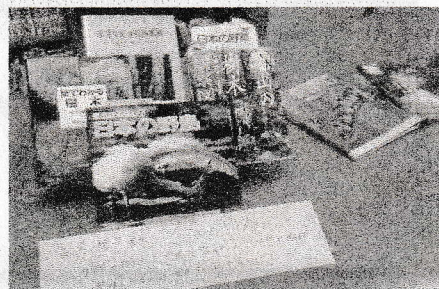
令和5年7月21日
静岡市立南中学校
学校便り8月号

「夏休みにできること」

校長 長尾 剛 史

市中体連が終了し、いよいよ県大会、東海大会のステージが始まります。吹奏楽部は、静岡県中部吹奏楽コンクール。美術部は市民ギャラリーで7月28日から30日まで展覧会を開催する予定です。それぞれ精一杯力を発揮して欲しいと思います。

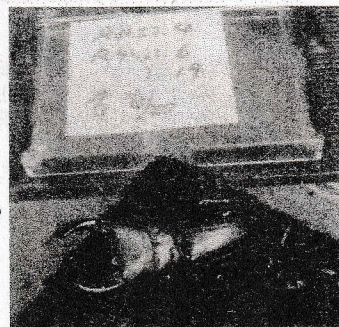
さて、個人的な話で申し訳ないのですが、最近とても嬉しいことがありました。この春から、植物学者の牧野富太郎博士をモデルとした「朝の連続ドラマ」が始まったことです。今から20年ほど前、私は井川自然の家の所員をしていました。そもそも保健体育科の教員なので、正直自然の家の所員が務まるか心配でした。自然の家の「オジサン」ですから、野外活動の技能や自然観察の知識をある程度は持っていなければなりません。そこで、自分なりに勉強したり、指導者講習会に参加したりして修業しました。様々な講習に参加し、多くの先生方に出会ったのですが、「自然観察」のテーマになると、先生方のほとんどが、牧野富太郎博士の話をするのです。そしてお決まりのセリフを口にするのです。「とにかくよく見る 虫になった気持ちでじっと見る」と植物の声が聞こえてくる 聞こえてくるまで見る」。そしてこう続けます。「牧野富太郎博士は、植物の声を聞いたから、ここまで細密に観察図を描けたのです」と。そこで私は「牧野日本植物図鑑」と出会い、博士の存在を知ったのです。力不足の私は、ついぞ植物の声を聞くことはありませんでしたが、観察した植物や対象物の記録を取っては、図鑑に付箋を入れ、メモを書き込みました。



自然の家時代「修業時代の図鑑」

今でも自然の家での「貴重な学びの経験」が、現在のライフワークに生きていると感じることがあります。今振り返ると、こうした経験ができた理由には、井川の大自然があったことのほか、自由に研究できる時間があったことが大きかったと感じます。また、時間の使い方を考えたことも重要だったと思います。例えば、今年見逃した植物や野鳥は、来年にならないと見ることができない場合があります。昆虫や動物は、繁殖のタイミングを逃すと、絶えてしまいます。決められた期間に、ねらいを持って計画的に行動しなければ、写真一枚撮ることすらできません。冬から春は野の草花を追い、夏は昆虫の記録を取り、秋はキノコや紅葉、冬芽をつける樹木、冬は越冬する動物たち。「これが仕事か?!」と言いたくなる毎日でした(こんな働き方改革がイイですね)。

今現在ですが、私はクワガタの一種、「オオクワガタ」と生活をしています。オス・メス4匹ずつを育て、繁殖させています。知り合いの昆虫好きから個体をいただき、偶然繁殖に成功したのです。初めは失敗ばかりでしたが、試行錯誤を繰り返し、今では幼虫の世話に忙しい日々を送っています。



「夏休みにできること」それは、「決められた期間に ねらいを持って 計画的に行動すること」です。夢中になって取り組めることとの出会いも大事ですが、それだけでは願いは叶いません。学習、趣味、部活動、ジャンルにこだわらず、もう一度どんな時間の使い方をするか考えてみましょう。



産卵木への「産卵」

産卵木の「割り出し」

プリンカップでの飼育

大きく成長した幼虫